

国 語

1 国語科の教育課程の編成

(1) 基本的な考え方

新学習指導要領は、教育課程の基準の大綱化、その運用の弾力化という方向性を一層強めた改訂が行われており、各学校においては、特色ある教育が展開されるよう、創意工夫することが従前に増して重要となっている。

このようなことから、教育課程の編成に当たっては、各学校における教育課題を様々な角度から点検し、それを解決する過程を通して学校を活性化していくという学校改善の視点に立つ必要がある。

国語科においては、新学習指導要領において改善が図られている内容を十分に踏まえ、読解指導に偏りがちな授業を確実に改善し、調和のとれた指導ができるよう、国語科の教育課程の編成と実施の在り方について、十分な検討を行うとともに、教育課程全体の中で国語を有機的に機能させていくという、教育課程経営の視点に立って、必修科目、履修順序、目標、領域構成、言語活動例等を考慮しながら教育課程の編成を考えていく必要がある。

ア 国語科の目標を踏まえた教育課程の編成について

新学習指導要領の国語科の目標は、基本的には従前の目標を踏まえつつ、新たに「伝え合う力を高める」ことが位置付けられている。このことは、生徒の生きる力の育成のために、言語の教育の立場に立つ国語科として、積極的にその役割を果たす必要があることを示したものである。

このようなことから、国語科の教育課程編成においては、生徒が良好な人間関係を築き、健全な社会づくりに積極的にかかわろうとする意欲や態度を身に付けることができるよう、科目設定に創意工夫を図るとともに、指導計画の作成や指導方法の改善についても同時に考えていく必要がある。

イ 科目選択の弾力化について

新学習指導要領の科目構成は、必修科目2科目と選択科目4科目の6科目となっており、必修科目は1科目指定を改め、「国語表現Ⅰ」及び「国語総合」からの選択履修とされている。各科目間の履修順序については、従前は学習指導要領に示されていたが、その定めがなくなっている。

教育課程編成に当たっては、このようなことを踏まえ、各学校が生徒に身に付けさせる言語能力についての考え方や方針を明確にするとともに、一層柔軟で弾力的な選択履修ができるよう配慮する必要がある。

ウ 領域構成と科目設定について

新学習指導要領では、教科の内容領域の構成が「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」及び〔言語事項〕の3領域1事項に再編成されている。

これは、生徒が自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に述べたり表現したりする能力、目的に応じた的確に読み取る能力や読書

に親しむ態度を育成するため、それにふさわしい領域構成の下で各領域の特性を生かしながら、生徒主体の言語活動が十分に行われるよう配慮したものである。

これを科目について見ると、「国語総合」は、高等学校国語の目標を全面的に受けるとともに、小学校国語及び中学校国語の内容を発展させた総合的な科目として、3領域1事項から構成されており、「国語総合」を除く科目では、それぞれの領域・分野に重点が置かれている。教育課程編成においては、これらのことを踏まえ、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じて、適切な科目設定をしていく必要がある。

(2) 配慮すべき事項

教育課程の編成に当たっては、新学習指導要領において改善が図られている事項を踏まえるとともに、各学校の国語科として抱える問題や課題について十分に検討を進めることが大切である。また、同時に課題解決のための方策を明確にしつつ、授業改善を図っていく必要がある。

ア 従来の国語科の在り方のうち、特に文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、読むことの指導の改善を図る。

イ 古典の指導において、一人一人の生徒がその生涯学習の中で古典に親しむ素地を養うため、古典の豊かな言語文化世界に触れさせることを中心とし、古典に親しむための指導を進める。

ウ 「総合的な学習の時間」において積極的に取り入れることとされている学習のうち、「調査・研究、発表や討論」などの「問題解決的な学習」については、「国語表現Ⅰ」や「国語総合」に言語活動例として示されていることも踏まえ、国語科として「総合的な学習の時間」への発展を意識して積極的かつ具体的な展開を図る。

(3) 特色ある教育課程の編成

国語科の教育課程の編成に当たっては、必修科目が選択となったことや、科目構成が変更されていること、履修順序が示されていないこと、学校設定科目が新たに設けられたことなどを踏まえ、国語科の教科会議での専門的な検討を行い、特色ある教育課程の編成を行うとともに、学校の教育課程全体の中で国語科の教育課程の検討を進め、教育課程全体が十分に機能するよう配慮することが大切である。

ア 科目の履修順序

新学習指導要領においては、従来示されていた履修順序についての記述がされていないことを踏まえ、科目選択を一層柔軟に進める必要がある。各学校が履修順序を考える上では、①「国語総合」は基礎的な科目であること、②「古典講読」の低学年での履修を考えることなどについて、あらかじめ確認しておく必要がある。

イ 学校設定科目の活用

学校設定科目の活用は、選択履修を一層柔軟にして、教育課程上の創意工夫をしやすくし、教育課程の実施の上で大きな力となる。学校設定科目の設置に当たっては、国語科の教育課程の中だけでなく、地理歴史科、特別活動、「総合的な学習の時間」など、学校の教育課程全体の中での関連を考慮して検討し、目標、内容、取扱いの仕方などを決定する必要がある。

2 指導計画と内容の取扱い

(1) 指導計画作成上の留意点

ア 総合的な言語能力の育成

「国語総合」はもとより、「読むこと」の領域に重点を置いた科目である「現代文」、「古典」及び「古典講読」においても、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の言語活動を効果的に取り入れて、総合的な国語の力を伸ばすことができるように配慮する必要がある。

イ 学校図書館と情報通信ネットワーク等の活用

読書意欲を喚起し読書力を高めるとともに、情報を活用する能力を養うために、学校全体の利用計画のもとで国語科における学校図書館の計画的な利用を図る必要がある。また、情報通信ネットワーク等の活用を通して、学習の効果を高める必要がある。

ウ 言語に関する事項の指導

〔言語事項〕は、学習指導要領において、表現力、理解力を形成する基礎的な事項として位置付けられている。したがって、〔言語事項〕に示された話し方や言葉遣いに関する指導事項等は、実際の言語活動を通して機能的に扱うことが大切である。

エ 主体的な古典学習の推進

古典については、今回の改訂において、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てることが一層重視されていることから、語句の意味や文の解釈が中心になりがちであった古典の学習を改善し、生徒が学習に主体的に取り組めるよう配慮することが大切である。

特に、「古典講読」は、古典に親しむ態度を育てることを中心的なねらいとする選択科目であり、今回の改訂では、「古典の現代語訳など」も、教材として適切な範囲で関連的に取り上げることができるようになったことなどを踏まえて、多様な学習活動を通して、古典に触れる楽しさを味わい、古典の言葉や文章の豊かな世界に親しむための創意工夫を一層図る必要がある。

(2) 内容の取扱い

ア 「国語総合」における指導時数の目安

「国語総合」については、「話すこと・聞くこと」を主とする指導に15単位時間程度、「書くこと」を主とする指導には30単位時間程度を配当するよう指導時数の目安が示されている。これは、高校生としての音声言語能力や文章表現力の基礎的な能力を確実に育成することをねらいとしたものである。指導に当たっては、生徒の学習が集中的かつ確実に進むよう、一つの学習のまとまり(単元)は、指導目標や指導内容を絞ってコンパクトにし、段階的に構成するなどの工夫を図る必要がある。

イ 常用漢字の指導

常用漢字の指導は、中学校3年間に1,945字のすべての漢字の音訓が出てくるわけではないことを踏まえて、主な常用漢字の音訓を正しく使えるようにするとともに、文脈に応じて適切に使えるように指導する必要がある。

ウ 教材の選定

教材の選定に当たっては、各科目に例示された言語活動が十分に行われるよう配慮

する。また、学習指導要領の各科目の「内容の取扱い」に示された事項のほか、「国語総合」及び「古典」の「内容の取扱い」に示されている他の科目に共通する教材選定の観点の各事項について留意する必要がある。

エ 評価方法の工夫改善

評価に当たっては、各科目の目標や各学校での指導内容に即した具体的な観点や評価基準を適切に設定する必要がある。また、指導計画や指導方法、教材、学習活動等を振り返り、次の指導や学習に生かすため、教師による評価とともに、生徒の自己評価や相互評価を取り入れるなど、指導と評価の一体化を図る必要がある。

オ 言語活動例を通じた指導

言語活動例は、指導内容と言語活動との密接な関連を図り、学習意欲を高め、主体的な学習を通して、指導内容を確実に身に付けさせることをねらいとして示されたものである。このことを踏まえ、各学校においては、学習指導のねらいや指導内容に応じ、生徒の実態に即した創意ある言語活動を工夫し、指導に生かしていく必要がある。学習指導要領に示された言語活動例をまとめると次のようになる。

言語活動例一覧（高等学校）

領域	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
リード文	指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにする（こと）。		
国語 表現 I ・ II	ア 自分の考えを明確にして、スピーチ、発表、討論などを行うこと。 イ 観察したことや調査したことを記録したり、まとめて報告したりすること。 ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること。 エ 身近にある様々な表現を集めその効果などについて考えたり、生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行ったりすること。		
国語 総合	(ア) 話題を選んで、スピーチや説明などを行うこと。 (イ) 情報を収集し活用して、報告や発表などを行うこと。 (ウ) 課題について調べたり考えたりしたことを基にして、話し合いや討論などを行うこと。	(ア) 題材を選んで考えをまとめ、書く順序を工夫して説明や意見などを書くこと。 (イ) 相手や目的に応じて適切な語句を用い、手紙や通知などを書くこと。 (ウ) 本を読んでその紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告などを書いたりすること。	(ア) 文章に表れたものの見方や考え方を読み取り、それらについて話し合うこと。 (イ) 考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。 (ウ) 課題に応じて必要な情報を読み取り、まとめて発表すること。
現代文	ア 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。 イ 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。 ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。 エ 自分で設定した課題を探究し、その成果を発表したり報告書などにまとめたりすること。		
古典	ア 古文や漢文の調子などを味わいながら、音読、朗読、暗唱をすること。 イ 国語の変遷などについて関心を深めるため、辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較対照すること。 ウ 古典に表れた思想や感情の特徴、表現上の特色などについて話し合うこと。 エ 古典を読んで関心をもったことなどについて調べ、文章にまとめること。		
古典講読	ア 古文や漢文の調子などを味わいながら、音読、朗読をすること。 イ 古典に表れた思想や感情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり発表したりすること。 ウ 古典を読んで、関連する文章や作品を調べたり読み比べたりすること。		

3 指導計画の作成

多様な言語活動を取り入れた「古典講読」（第2学年）の指導計画（例）

『雨月物語』を、発表や話し合い、読み比べ、創作などの活動を通して学習することにより、古典に触れる楽しさを味わうとともに、古典に対する興味・関心を高める。

< 2 単位 >

[] は言語活動を示す

学期	時数	単元(項目)	教 材	形態	指 導 の わ ら い	学 習 活 動 ・ 指 導 事 項	評 価	
1	3	『雨月物語』を読む	『浅茅が宿』	個人・一斉	・ガイダンス ・『雨月物語』執筆の意図に様々な説があることを理解させる。	○年間の授業概要を説明する。 ○『雨月物語』について調べたことを発表する。【調べ・発表】 ・図書館インターネット等を活用させる。	・発表の内容や方法は適切であったか。(自己評価) ・登場人物の心情を的確に理解し、表現できたか。(相互評価)	
	5			個人	・これまでに学んだ語句や文法の知識を再確認させる。	○『浅茅が宿』を現代語訳する。 ・古語辞典、文法書等を用い現代語訳し、段落ごとに全体で確認する。必要に応じて、現代語訳のプリントを配布する。		
	1			個人・一斉	・朗読を通じて、登場人物の心情に対する理解を深めさせる。	○二人一組で『浅茅が宿』の「勝四郎」と「宮木」のせりふ(原文)を朗読する。【朗読】 ・あらかじめ評価の観点を知らせておく。		
	4			グループ	・現代語訳の検討を通じて、文語特有の表現に関心を持たせる。	○『雨月物語』の他の作品から興味のあるもの一つを選ぶ。同じ作品を選んだ者同士でグループを作り、グループとしての現代語訳を完成させる。【話し合い】 ・選択の手掛かりとしてあらかじめ作品の梗概を配布しておく。 ・全員が話し合いに参加できるよう、グループの人数を調整する。		
	10			個人	・調べたことをまとめたり、発表の方法を工夫したりすることで古典に触れる楽しさを味わわせる。	○各グループ毎に、選択した作品について調べ発表する。現代語訳は印刷し全員に配布する。【話し合い・調べ・発表】 ・古典の楽しさが伝わるような発表を工夫させる。必要に応じて、発表の方法(せりふの朗読、紙芝居の作成、OHPによる挿絵の提示、効果的な音楽の利用等)について助言する。 ・発表後に教師が補足説明する。		
	2			個人	・各グループの発表から『雨月物語』についての理解を深めさせる。	○各グループの発表についての感想をまとめる。【まとめ】 ・あらかじめ評価の観点を知らせておく。		
2	『雨月物語』と関連させながら中国伝奇小説を読む(読み比べ)。							
3	1	(西洋の怪奇小説を読む)	ポオ『黒猫』	個人	・東西の文化の違いに対する関心を深めさせる。	○『黒猫』を読み『雨月物語』や中国の小説との違いについて話し合う。【読み比べ・話し合い】	・恐怖を喚起するような読み方ができたか。(相互評価)	
	2	(『怪談』を創作する)	小泉八雲『怪談』	個人・一斉	・内容にふさわしい朗読の方法を工夫させる。 ・作品の構成に対する興味を喚起させ、『怪談』創作の手掛かりとする。	○『怪談』から好きな話を選んで朗読する。【朗読】 ・評価の観点を確認して朗読する。 ○恐怖を喚起するためどんな工夫がなされていたか、話し合う。【話し合い】		
	4			個人	・『怪談』を創る作業を通じて、文語特有の表現に関心を持たせる。	○文語的表現を取り入れてそれぞれが『怪談』を創作する。【創作】 ・文章はコンピュータで作成。随時下書き(プリントアウト)を提出させ、よりよい表現となるよう助言する。		
	3			個人・一斉	・内容が聞き手に伝わるような朗読の方法を工夫させる。	○創作した『怪談』を朗読により発表し、『怖い作品ベスト3』を選ぶ。【朗読・発表・話し合い】 ・あらかじめ評価の観点を知らせておく。		
	3	(まとめ)		個人・一斉	・作品に表れた作者の思想を読み取り、人間としての生き方について考えさせる。	○『雨月物語』について自分の考えを800字程度でまとめる。【まとめ】 ・創作した『怪談』の完成稿と『まとめ』の文章をプリントアウトして文集を作る。		

4 質疑応答

問1 「国語科」と「総合的な学習の時間」の関連を図る上で大切なことはどのようなことか。

「総合的な学習の時間」においては、各教科・科目等で身に付けた知識や技能が総合的に働くようにするとともに、「総合的な学習の時間」で身に付けた力を各教科・科目等の学習の中で生かすよう、各教科・科目等との有機的な関連を図る必要がある。

特に、言語の教育の立場に立ち、伝え合う力の育成を教科の目標に掲げる国語科にとって、「総合的な学習の時間」等に生かすことのできる言語能力の育成を図ることは、国語科としての最低限の責任である。

「総合的な学習の時間」における「調査・研究、発表や討論」などの「問題解決的な学習」については、「国語表現Ⅰ」や「国語総合」に言語活動例としても直接的に示されていることに留意する必要がある。とりわけ「国語総合」においては、話すこと・聞くことを主とする指導及び書くことを主とする指導に、それぞれ指導時数の目安が示されていることから、各学校においてはこれらの時数を確保し、課題について情報を収集し活用して、相手に分かりやすく話したり、相手の話をきちんと聞いて、話の要点を正確に聞き取ったり、事実や事柄をしっかりとらえ、客観的に書いたりできるなどの基礎的な言語能力を育成する必要がある。

問2 「国語科」において学校設定科目を設定する場合の留意点としてどのようなことが考えられるか。

今回の改訂では、従前の「その他の科目」、「その他特に必要な教科」は、学校設定科目、学校設定教科とそれぞれ改められ、教育課程編成の主体である各学校の判断によって、独自に科目や教科を設定できることとなった。

学校設定科目については、学校の教育課程全体の編成作業に即しつつ国語科教育課程を構想する中で、その可能性を検討する必要がある。その際には、学習指導要領に示されている6科目との関連にも配慮するとともに、国語科の目標に基づき、学校・学科の特質や生徒の実態等に応じて、伸ばすべき言語能力を想定することが大切である。

各学校においては、生徒や学校の実態等に応じて、学校設定科目の必要性の有無、必要と判断した場合の科目の名称、目標、内容、単位数等について、様々な視点から検討する必要がある。

学校設定科目例

科目の性格	科 目 例
基礎的な科目	国語基礎 古典基礎 教養基礎 国語一般
発展・深化を目指す科目	音声表現研究 文章表現研究 作品講読 古典鑑賞 実用国語 百人一首の世界 評論研究 小説研究 創作国語
地域関連科目	郷土文学 ○○県の文学 ○○方言